新型コロナウイルス感染症緊急子ども支援 「夏休み　子どもの食応援ボックス」利用者アンケート結果

2021 年 9 月

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

Save the Children
セーブ・ザ・チルドレン

＜夏休み　子どもの食応援ボックス実施概要＞

【実施期間】	・申込受付：2021 年 6 月 23 日～6 月 30 日 ・発送：第 1 回目：7 月 23 日、第 2 回目：7 月 29 日
【配布世帯数】	3,182 世帯　※期間中に申し込みがあり、書類等で申込条件を満たすと確認できた全世帯に配布
【対象者】	2021 年に緊急事態宣言により緊急事態措置を実施すべき区域およびまん延防止等重点措置を実施すべき区域と定められた全国 21 都道府県 （北海道、宮城県、群馬県、栃木県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、石川県、岐阜県、愛知県、三重県、京都府、大阪府、兵庫県、岡山県、広島県、愛媛県、福岡県、熊本県、沖縄県）
【申込条件】	1．対象地域に居住する 2．0 歳～18 歳までの子どもを扶養する 3．所得割非課税世帯またはそれに準ずる
【配布内容】	・食料品セット（米 5kg、麺、副菜となるレトルト食品、調味料、お菓子など） ・情報提供（子どものこころのケアのリーフレットなど）
【実施目的】	新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、経済的に困難な状況にある家庭の子どもたちの食・栄養状況改善のため。

Save the Children
セーブ・ザ・チルドレン

アンケート回答世帯の状況

アンケート回収率 ＊申請時に回収	98.8%（3,143 世帯）

アンケートに回答した保護者の性別	女性	男性	答えたくない
割合	97.3%	2.7%	0.1%

利用した保護者の年代	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上
割合	0.1%	4.8%	35.7%	48.0%	10.9%	0.3%	0.1%

世帯状況	割合
ひとり親世帯（別居など実質のひとり親も含む）	95.9%
ふたり親世帯	3.9%
その他（祖父母が養育しているなど）	0.2%

	乳幼児	小学校 低学年	小学校 高学年	中学生	高校生	合計
子どもの数	789	988	1,027	1,149	1,202	5,155

＊割合の分母はすべて 3,143 世帯

Save the Children
セーブ・ザ・チルドレン

アンケート結果から明らかになったこと

1. 新型コロナウイルス感染症拡大により、**６割以上の世帯で勤務時間・日数の減少、休業または失業**（解雇・雇止め・倒産・廃業）といった影響が出ている。

2. 新型コロナウイルス感染症拡大により、**約３割の世帯で収入が半分以上減少、１割以上の世帯で収入がゼロ**となっている。

3. 本ボックスの**申し込み理由として、半数以上の世帯が、「十分な量の食料を買うお金がない」、「今後長期休暇に入り給食がなくなるため食費が心配」**と回答している。

4. **半数以上の世帯が食費、衣料、衛生用品などの生活必需品や教育に関する支出に困難**を抱えている。

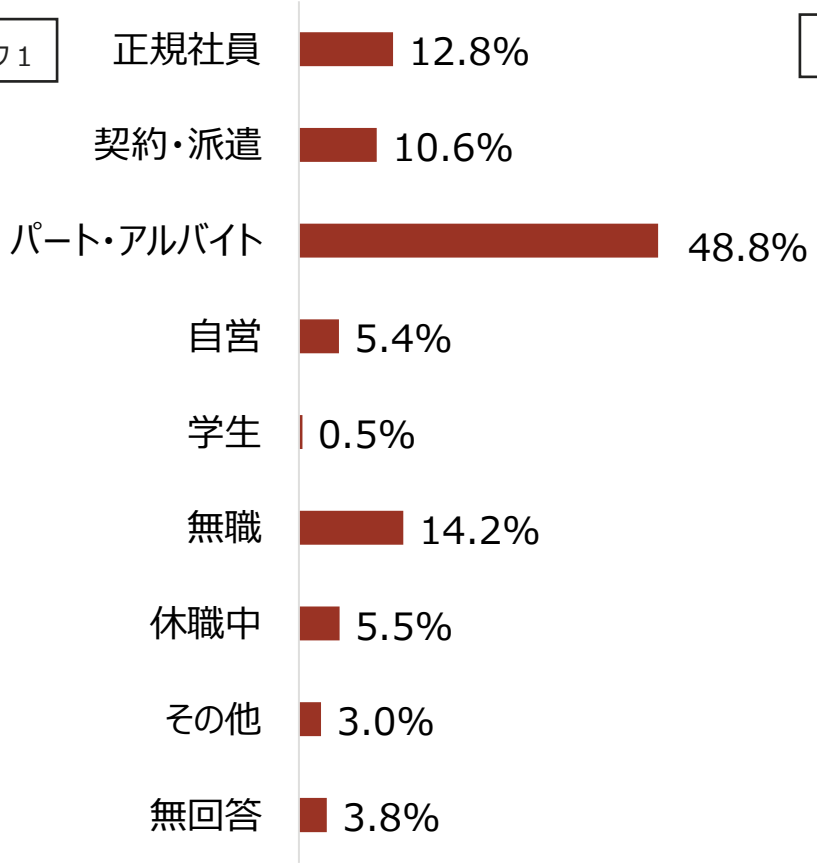
5. 子どもの生活や学習に関する悩み事として、**半数以上の世帯が、「子どものストレスがたまっている」、「経済的理由により子どもを塾や習い事に通わせることができない」**と回答した。

6. 経済的理由による、**レクリエーションやスポーツなど子どもたちの物品・経験の欠如**に加え、**養育者に時間的・精神的余裕がなく子どもと十分に接することが難しい状況**が明らかになった。

1．利用世帯の状況

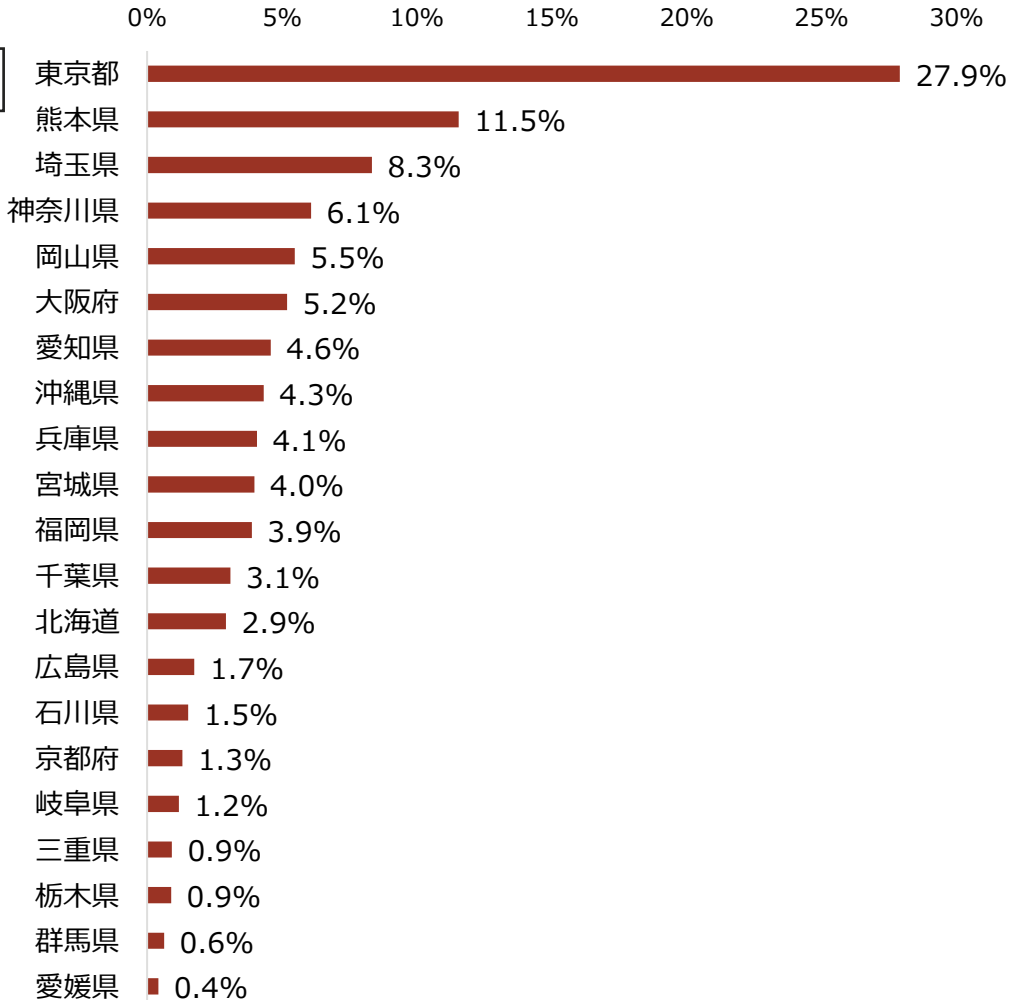
保護者の就業状況

グラフ 1



居住地

グラフ 2

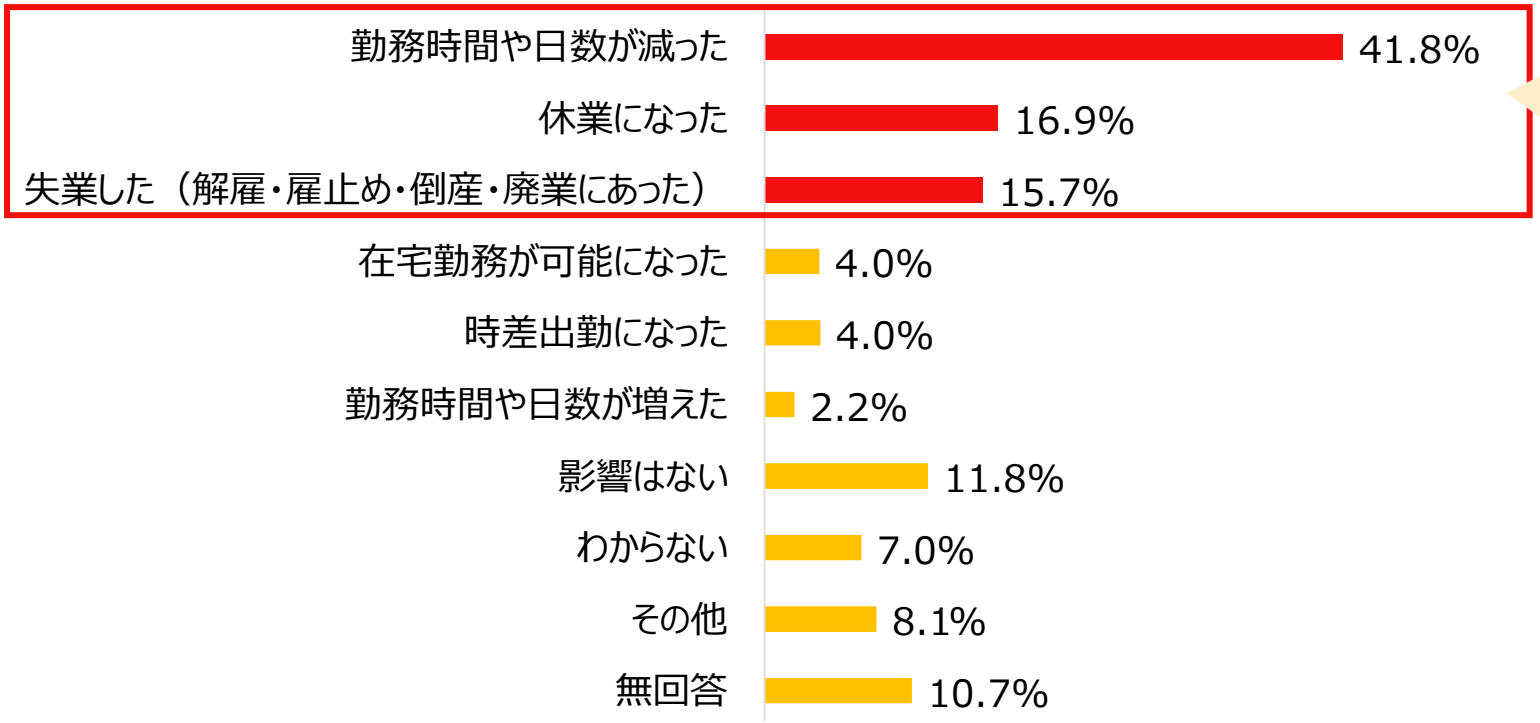


Save the Children
セーブ・ザ・チルドレン

2. 新型コロナウイルス感染症拡大の仕事への影響

申請時の質問：新型コロナウイルス感染症の拡大により、2020 年 2 月以降、あなた、またはご家族の仕事の面での影響について教えてください。（任意、複数回答）

グラフ 3



勤務時間・日数の減少、休業、失業等、マイナスの影響が出た人は 1,896 人（**60.5%**）

● その他の内容（一部）

・コロナ禍で求人自体が激減した。就活難のなか何とか派遣で食い繋いでいるが、ひと月更新のため毎月末ヒヤヒヤしながら生きている。それでも今どんどんシフト減らしにあっている。（40 代女性、中学生、高校生 2 人）

・飲食店経営の為、開店してもコロナの影響で来客が見込めず、副業を探しているがなかなか決まらない。（40 代女性、小学校低学年）

Save the Children
セーブ・ザ・チルドレン

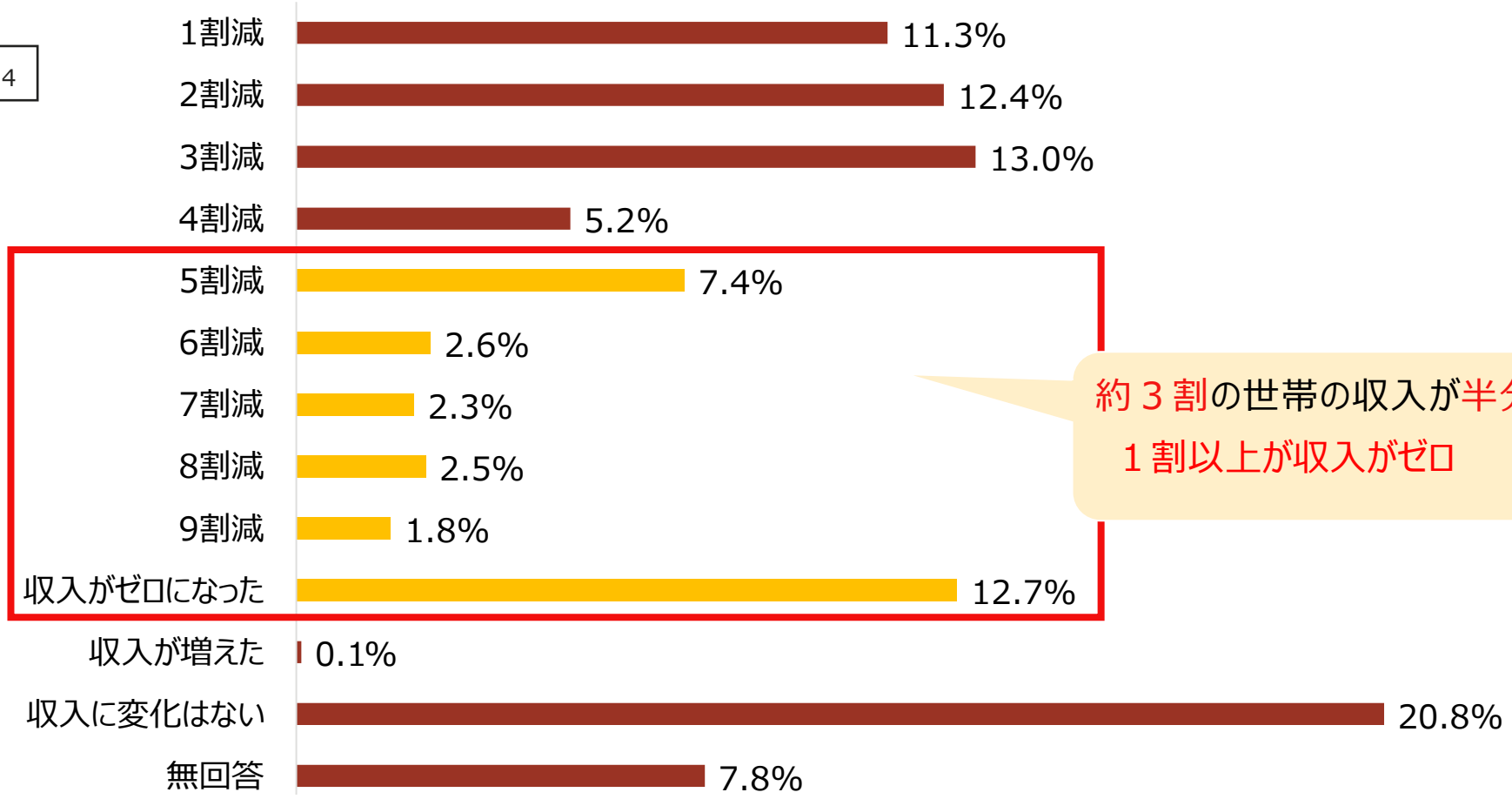
＊（）内は回答者の年代・性別、子どもの年代

＊保護者の声は、原文から一部を抜粋し、文意が変わらない範囲で編集しています。

3. 収入が減少した割合

申請時の質問：新型コロナの影響で、あなたの家庭の収入はどの程度減少しましたか？（任意、単数回答）

グラフ４



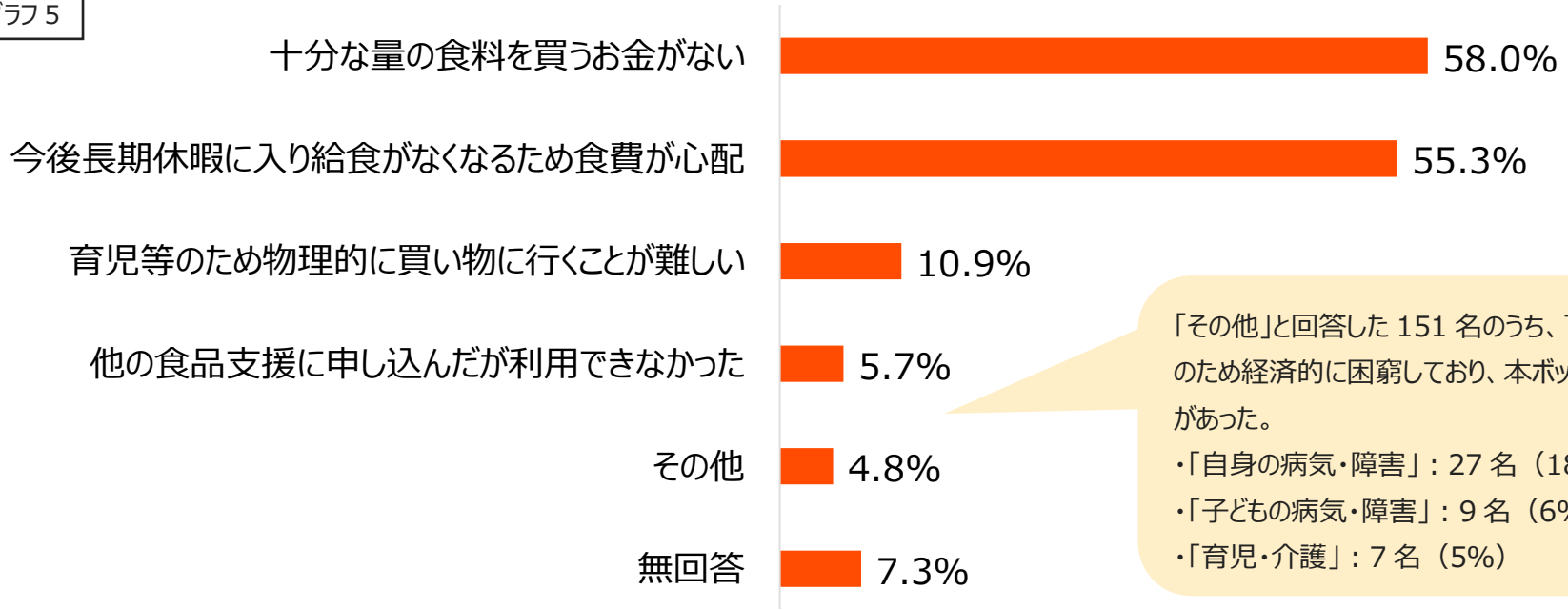
約３割の世帯の収入が半分以上減少・
１割以上が収入がゼロ

Save the Children
セーブ・ザ・チルドレン

4.本ボックスの申込理由

申請時の質問：本ボックスの申し込み理由を教えてください。（任意、複数回答）

グラフ 5



「その他」と回答した 151 名のうち、下記の理由で就労困難のため経済的に困窮しており、本ボックスを申し込んだと回答があった。

・「自身の病気・障害」：27 名（18%）
・「子どもの病気・障害」：9 名（6%）
・「育児・介護」：7 名（5%）

● その他の内容（一部）

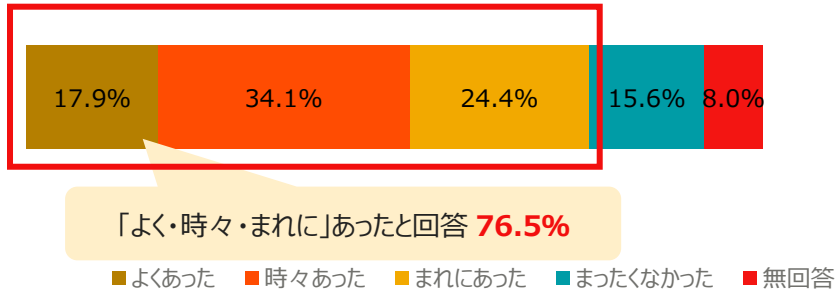
・ 自営業で毎月の収入が不安定で、コロナ感染者が増えると売り上げがない日もあります。食べ盛りの子ども達に少しでも十分に食べさせてあげたいと思い応募いたしました。（50 代女性・高校生 2 人）
・ 派遣切りにあい、下の子が小さい為、正規社員の募集に応募しても断られて職が不安定。（30 代女性、高校生、乳幼児）
・ 高校生の男の子食べる量が増えたため自分の分を減らして子どもによそっています。なので、お腹いっぱい食べさせてあげたい。（40 代女性、高校生）
・ 先日コロナウイルス濃厚接触者に認定され、その時に休んだお給料がでない為、家計が厳しい。（40 代女性、小学校低学年、小学校高学年、高校生）

Save the Children
セーブ・ザ・チルドレン

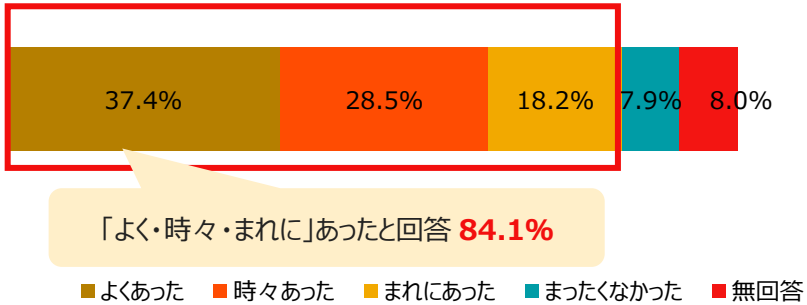
5.支払い困難の経験

申請時の質問：あなたの世帯では、過去 1 年の間に、経済的な理由により、子どもに関わる下記の経費が支払えないことがありましたか？（任意、単数回答）

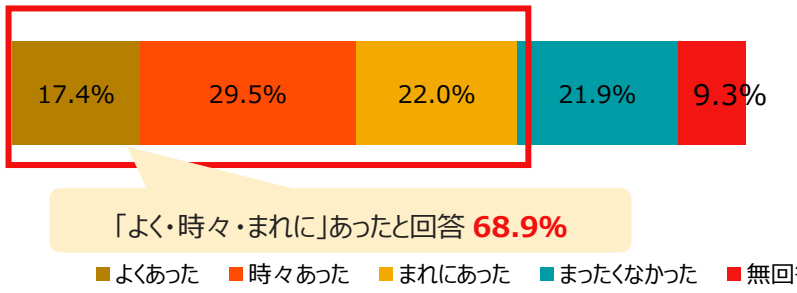
グラフ 6　食料品費を支払えなかった



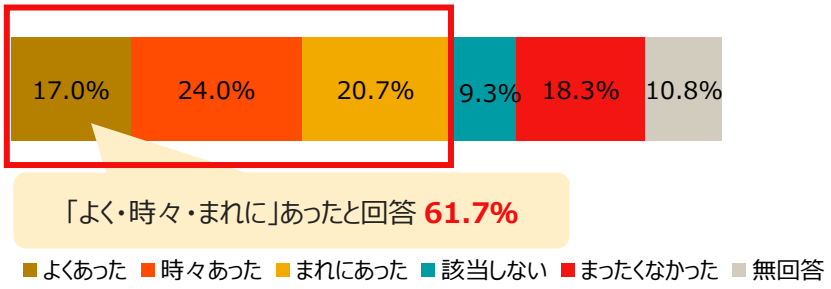
グラフ 7　衣料品費を支払えなかった



グラフ 8　衛生用品費を支払えなかった



グラフ 9　文房具・教材費を支払えなかった

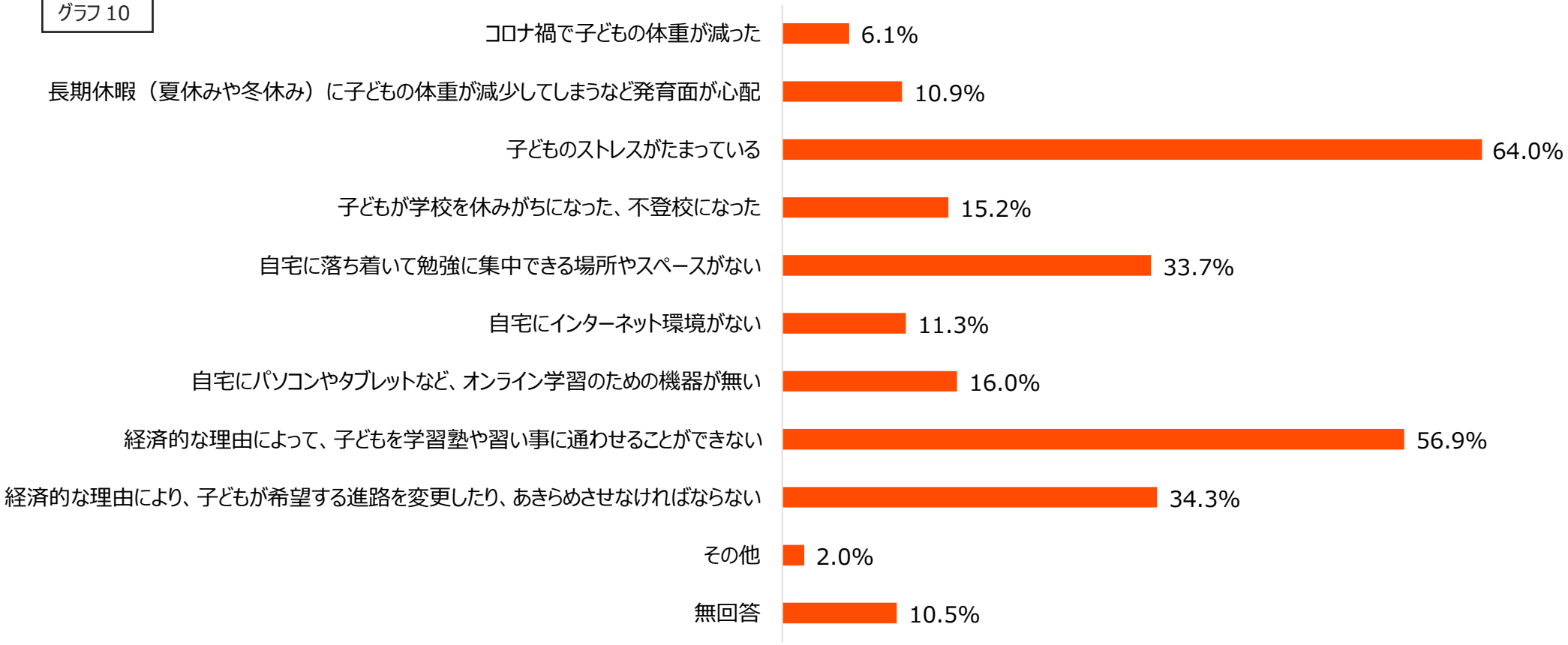


Save the Children
セーブ・ザ・チルドレン

6.子どもの生活・学習について

申請時の質問：お子さんの生活や学習に関して困っていることはありますか？※任意、複数回答

グラフ 10



● その他（一部）

・ 経済的理由で、自転車を購入出来ず、6 年生の子もまだ自転車に乗れずにいる。下の 2 人も同じく。また、6 年生の子に部活動をさせてあげられなかった。（30 代女性・小学校低学年 2 人、小学校高学年）

・ 部活をお金のかからない部活に変えてくれたりしている。本当に、やりたい部活はお金のかかる部活なので。（40 代男性、中学生、高校生）

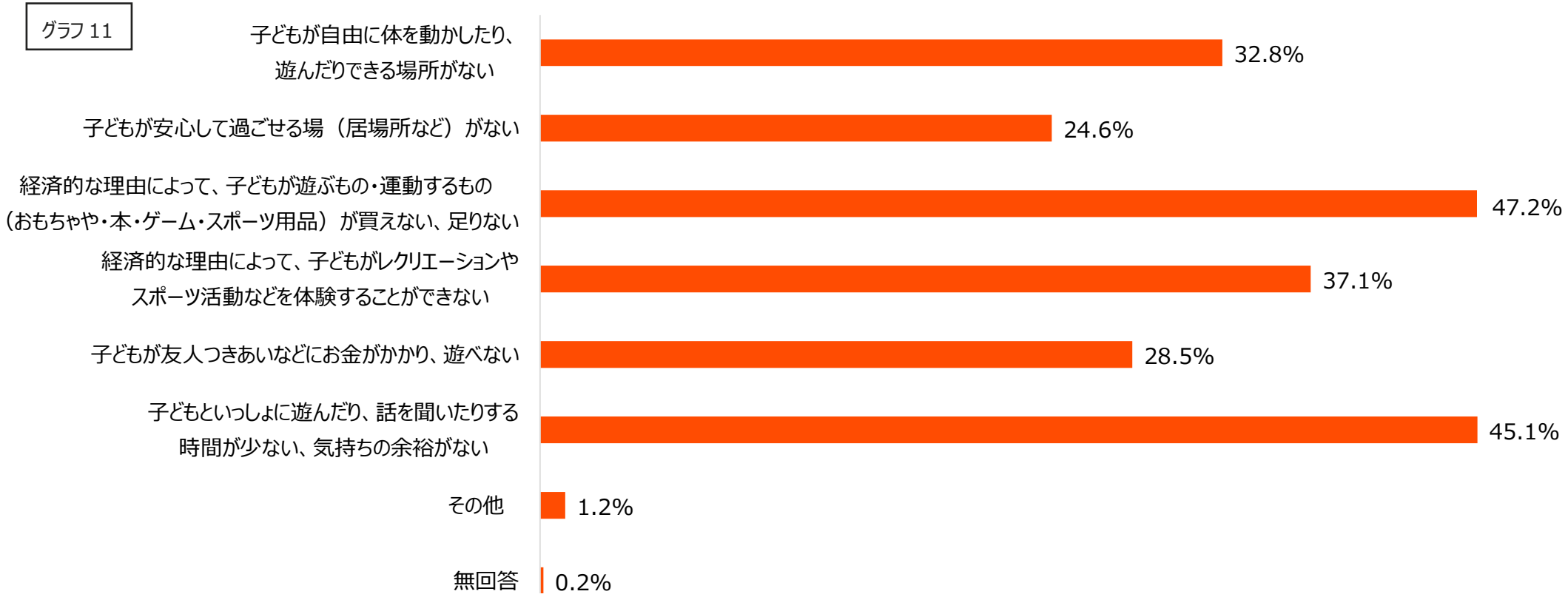
・ 制服はおさがりをもらい、汚れていてもなかなか新しいものに変えるのも躊躇している。（40 代女性、中学生、高校生）

)

7. 子どもの遊び・体験の機会について

申請時の質問：お子さんの遊び、余暇活動、様々な体験の機会に関して、困っていること、心配なことはありますか？
（※任意、複数回答）

グラフ 11



● その他の内容（一部）

・まわりは皆習い事や塾で、置いていかれる不安に陥っています。40 代女性、小学校高学年、高校生）

・ひとり親で、公園以外のレジャー施設に連れて行く余裕がない。(30 代女性・乳幼児 2 人）

・学童保育にかかる費用も高いので、通わせるのをやめてしまった。でも自宅に 1 人でお留守番させるにはまだまだ心配な年頃でした。でもお金もなく仕方なかった。（40 代女性、乳幼児、小学校低学年）

・周りのお友達は旅行・お出掛け・映画などに行っているのに、うちでは行けず子どもが仲間外れになったそうです。（40 代女性、小学校低学年 2 人、小学校高学年）

８.心配ごと、困っていること、社会や政府に求めること（一部）

申請時の質問：差し支えない範囲で、あなたがいま悩んでいることや心配なこと、困っていること、政府や自治体、社会に求めること、伝えたいことを具体的に教えてください。（任意、自由記述）　＊（）内は回答者の年代・性別、子どもの年代

*保護者の声は、原文から一部を抜粋し、文意が変わらない範囲で編集しています。

＜食事＞

・昨夜の夕食は、目玉焼き丼にしました。喜んで食べてくれる子どもに、申し訳ないです。もっと、大好きな豚カツや唐揚げ、ハンバーグを食べさせてやりたいのが正直な気持ちです。（40 代女性、乳幼児）

・子どもたちがご飯を食べられるように自分のご飯を 1 日 1 食にし食費を浮かせたりしている。（30 代女性、乳幼児、小学校高学年 2 人）

・私は飲食店で働いており、コロナ禍になってからお客さんも減り、週 5 日だった出勤日数が週 2 日になり家賃代だけの給料になりました。児童手当や扶養手当は全て光熱費などに使う事になり、食費も削ってなかなか美味しいご飯を子ども達に食べさせてあげれなくて辛いです。（30 代女性、小学校低学年、小学校高学年、中学生）

＜保育園・乳幼児＞

・保育園に申し込んでも待機児童になり働けず困っている。そしてコロナで復職先も事業縮小でこれ以上働く人を増やせない、と戻れる可能性が低く不安な毎日です。（20 代男性、乳幼児、小学校低学年）

・保育園に行っているので着替えがたくさん必要で、洋服を買うのにとてもお金がかかる。靴も 2 足用意しなければならず、3 か月ごとに買い替えるので成長期にとても大変な状況です。子どもの衣料費や現物支給などの支援があると助かります。（40 代女性、乳幼児 2 人）

・病気を持つ 3 才児とまだ手のかかる一才児がいるため、休みの融通がきかなかったらどうしようか、などを考えてしまい転職もできません。もちろん、ひとり親で子どもが小さいというだけでなかなか採用もしがたいのもわかります。転職が不利なのも理解していますが、どこに相談をしていいのかもわかりません。（30 代女性、乳幼児 2 人）

＜学費・学校生活にかかる費用＞

・正規社員と言えど、仕事が薄くなり残業代が全てなくなった為、子どもが中学に入学し学費がかかる。この先もっとお金がかかるのに払っていける自信が無い。（30 代女性、小学校低学年 2 人、中学生）

・コロナの影響もあり、収入が減りました。収入がないに等しいのに子どもの学校の必要経費は払わなければいけないので、自分の着る物や持病の病気の通院を削るしかないです。それでも足りなくて学校の経費を滞納してしまったりしています。（40 代女性、高校生）

・子どもに、小さくなってボロボロの体操服を我慢して着てもらっている。（40 代女性、小学校低学年、小学校高学年、中学生、高校生）

・オンライン学習を進めているが、パソコンもタブレットもない為、購入する際の費用もなくどうしたらいいのかわかりません。オンラインを進めるのならパソコン購入する費用も、Wi-fi の費用も少しは補助していただけないと、学習の機会が奪われて進学にも影響がでます。（30 代女性、高校生）

＜塾・部活動＞

・五教科の学習塾へ通わせてやれない為に志望校が限定される。大学へも行けないと貧困格差は繰り返される。子どもの将来が心配です。（50 代女性、中学生）

・昼間は、正社員として働き、夜はバイトをしていますが、時短で収入が減ってしまいました。コロナで学校行事が変更になり部活の遠征も無くなり正直助かりましたが、不安は、山盛りです。（30 代女性、小学校低学年 2 人、中学生、高校生）

・上の子の学校で全員受けなくてはならない英検や漢検費用、また部活着も出してあげられない。誕生日もしてあげられなかった。私のせいで可哀想な思いをさせてしまい子ども達には申し訳ないです。（40 代女性、小学生、高校生）

＜児童手当・奨学金・その他制度＞

・高校生になり児童手当など国の支援も無くなり経済的に厳しい。義務教育では無いが今はほとんどが高校に通う時代。高校生家庭にももっと支援を広げて欲しい。（40 代女性、高校生）

・子どもには夢を諦めさせたくなくて、奨学金を借りて、私立高校に通わせている。なるべく奨学金を使わないでいたい。所得と学力が比例する状態がなくなって欲しい。頭の良い下の子に塾に行かせられない、また伸ばしてあげられないのが切ない。（50 代女性、小学校高学年、中学生、高校生 2 人）

・大学進学にあたり、奨学金の制度は良くなったと感じます。一方、入学時に一旦先に入学金、前期授業料の納入、試験代など様々な問題があります。何とか奨学金の申請が受かれば、納入時期を待って頂けたりの対策があれば進学を諦めなくて良い子どもが増えるのではないかと思います。（40 代、高校生）

＜社会全般＞

・どんな環境に生まれた子どもでも安心して勉強できる、お金も含めた総合的な環境の整備を望みます。（40 代女性、中学生 2 人）

・もっと、格差のない社会ならばありがたいですが、ひとり親にとって、他の子と同じ様に習い事などを満足にさせてあげられる状況に無いのが現実です。贅沢は言いませんが、子どもたちが希望する事をひとつでも叶えてあげられるような社会になると嬉しいと思っています。（40 代女性、小学校低学年、小学校高学年）

・私は我慢できても子どもには不自由な思いをこれ以上させたくない。 小学 6 年の娘は友達と比較して我慢していることがたくさんある。もっと子育てしやすく子どもに不憫な思いをすることのない社会になってほしい。（30 代女性、小学校高学年、中学生）

■以上